



寒い冬は給湯器の凍結に注意!

寒くなってくると給湯器の故障が増える時期になります。どうして寒くなると給湯器が故障しやすいのでしょうか？それは水温が低くなり、給湯器の熱交換(水をお湯に変えるところ)で、たくさん燃焼させないとお湯に変わらないからです。つまり暖かい時期より給湯器自体がフル回転しているので、給湯器内部の部品に負荷がかかり、壊れやすくなるのです。

凍結による給湯設備の破損を防ぐために



冬場は給水・給湯配管やガス給湯器内部が凍結してしまうおそれがあります。低温注意報が発令されたときや、冷え込みが厳しいときは、あらかじめ以下の処置を行い、凍結を予防しましょう！



Point 1 給湯栓の凍結を予防

給水および給湯配管や給水元栓の凍結を防ぐため以下の通水の処置をしてください。機器だけでなく、給水・給湯配管、給水元栓なども同時に凍結予防できます。

運転スイッチを「切」にする。

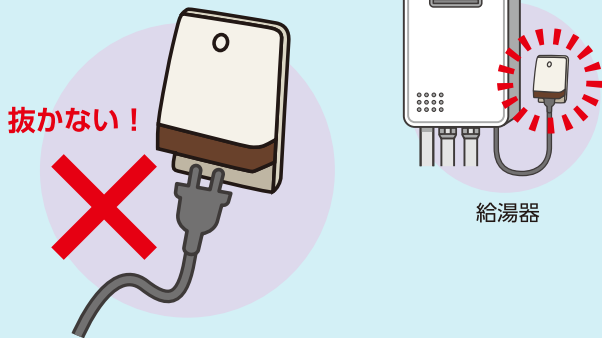
おふろの給湯栓を開いて、少量の水※を流したままにしておく。



※1分間に約400cc。
太さ約4mm

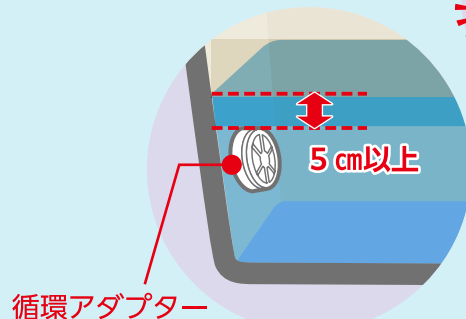
Point 2 ガス給湯器本体の凍結を予防

給湯機器の器具内の凍結予防ヒーターが、凍結の危険のある気温近くになると自動的に作動します。電源プラグを抜くと作動しないため、電源プラグは抜かないでください。



Point 3 追いだき機能付きふろがまの凍結予防

浴槽の水を循環アダプター上部より5cm以上ある状態にしてください。



※運転スイッチの「入/切」に関係なく、ポンプが自動的に浴槽の水を循環させて、凍結を予防します。(ポンプが運転する音「ウーンという音」がします)